

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200531		
法人名	有限会社 千寿園		
事業所名	グループホーム長寿の里「相知」		
所在地	唐津市相知町大字黒岩518-2 (電 話) 0955-51-8114		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年5月15日	評価確定日	平成 20年6月16日

【情報提供票より】(平成20年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年4月30日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	冬野病院 ・ 小田歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

唐津市相知町の自然豊かな中に、2年前に開設された2ユニットのグループホームである。豊かな自然環境と、木造のゆったりした建物の中で、入居者は日常生活をスタッフと供に送りながら静かに生活されている。また、花を育てたり、一緒に食事を作ったり、花見や近くの名勝見返りの滝のアジサイ見物など四季折々の風情を楽しまれている。認知症をよく理解した専門のスタッフが、入居者一人ひとりに合わせた介護計画のもとでケアが自然に提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の掲示、洗面所のペーパータオルの設置、室内の観葉植物等の配置など、外部評価の内容をホーム内で検討し改善に取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の交代等により、今回は管理者で自己評価を行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の出席者が少なく、市・地区・家族・ホーム側のみで行っており、行事報告や近況などがテーマが中心となるが、ホームの困り事などへの解決策をいただくこともある。会議の内容は家族へ報告されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム以外の相談窓口の紹介や、運営会議やお便りで機会を作っている。また、玄関先に意見箱を置いて、様々な方法で意見が言えるよう工夫され、出された意見や要望についてはホーム全体で取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事には積極的に参加している。近所の散歩やドライブ、地区の小学校との交流もしている。地域のお祭りで知人と出会い話が弾む利用者もいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念とは別に、ホーム独自で[明るく楽しく健康で笑顔ある生活を]の理念を作りあげている。入居者、職員、地域住民が共に楽しく健康で笑顔あふれる生活が出来ることをめざしている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所にも掲示され、毎朝のミーティングや月1回の職員会議などで唱和している。管理者も職員も理念を共有し日々生活の中に取り入れている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に積極的に参加し近所への散歩や近隣へのドライブ、地区の小学校との交流をしている。地域のお祭りで知人と出会い話が弾む利用者もいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で提案されたことが改善でき、評価を活かしている。職員の異動により今回の自己評価は管理者で行われ、全体のものとなっていない。	○	職員全員が自己評価に取り組まれ、評価の意義を理解されることが望まれる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者が少なく、市・地区・家族・ホーム側のみで行っている。ホームの困りごとなど解決策をいただくこともある。行事報告や近況などがテーマとなり、内容は家族へ報告している。	○	地域の様々な分野からの参加を呼びかけ、更に活性化されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困ったときなどに相談しアドバイスを受けている。毎月1回、市の介護相談員の訪問を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回家族へお便りを出している。行事予定や報告、近況など記入している。本部から金銭管理関係文書と共に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム以外の相談窓口の紹介や、運営会議やお便りで機会を作っている。また、玄関先に意見箱を置いて、様々な方法で意見が言えるよう工夫され、出された意見や要望についてはホーム全体で取り組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や交代等があった時は、声をかけて励ましたり、話したりするなど、精神面でのフォローを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を設けたいが、勤務の都合でなかなか実施できない。ホーム内で専門職員が資料を作り、勉強会をしている。職員も勉強の機会を作りたいと意欲的である。マニュアルなどを見ながら勉強している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地域のネットワークの交流会に参加し、他のホームからの情報を職員に伝え、サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験希望に応じている。ほとんどは家族と共に見学に来られ、馴染まれるまでの1～3ヶ月間は、職員と家族が協働して取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に行うことを大切にしている。情報や会話やしぐさで得意分野を見出し、取り組んでいる。毎朝外を掃き掃除したり、料理の材料下ごしらえなどされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のかかわりの中で言葉を交わしながら、本人の思いを理解するよう努められている。また、職員全員で話しながら総合的に判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時などに希望を聞いたり、日頃のかかわりの中で課題を見出し、計画を作っている。また、家族へ説明をして同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月・6ヶ月ごとに評価をし、担当者会議を開き必要があれば変更している。記録にはケアプランに則して記載されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通帳をホームで管理しており、承諾の必要な時には家族へ連絡し了解を得ている。かかりつけ理美容院希望のときは家族へ連絡し職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望で主治医は決定している。了承されれば、協力医療機関を紹介している。医師との連携を図り、24時間対応出来る様に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制がある。マニュアルがあり、勉強会をしている。入居時に家族への説明をし同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には誓約書、家族へは取扱いの説明をし、文書を交わして同意を得ている。また、個人ファイルは事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日のリズムはあるが、決して無理強いはしないようにし、自由にされている。入浴も希望を聞いて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや茶碗洗いなど一緒にしている。仲良し同士で同じテーブルにつかれ楽しく食事されている。また、職員も共に食事をし、味を聞いたり、食べたいものを聞いたり、会話を楽しまれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっている。入浴嫌いな人に声かけでうまくいかないときやタイミングが合わない時は、無理強いしないようにしている。同じ人がいつも同じ時間に入るのではなく、順番も変えながらゆっくり入っもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の行事や行事食、プレゼントなど楽しみにされている。また、書道や新聞読み、余暇活動などされている。気分転換に散歩や庭いじりなども共に行われている。洗濯物干しを自分の役割とされている方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所に散歩したり、季節ごとに花めぐりなどしている。庭のいすに座ったり、草むしりなどされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけられていない。玄関先にセンサーマットを置き、独りで外出される方の把握に努められている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練が行われている。地域の協力をお願いしている。夜間想定訓練も予定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は記載している。飲み込み状態に応じた形での提供やトミ付けもしている。職員が同じテーブルで食事をする事で水分量のチェックもできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日のほとんどを過ごす食堂ホールの天井は高く、窓も多く外の景色が見え、開放的で、ゆったり座れるソファークツろぐことができる。ホーム全体に季節感のある飾りや、手作りの小物があり、トイレも広く居心地の良い空間ができている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の使いなれた物の持込を薦めている。それぞれ馴染みの家具が持ち込まれ、その人らしい部屋がつけられ安心して過ごせるように支援されている。		